

横浜市 麻しん流行情報 8号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

市内で麻しん患者発生の報告がありました。

- ◆ 6月下旬以降、麻しん患者の報告はありませんでしたが、9月に6名の報告(10月2日現在)がありました。
- ◆ 麻しんは非常に感染力が強く、その予防には2回の予防接種が必要です。**麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。**
- ◆ 感染が疑われる際は、**必ず医療機関に事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診しましょう。**

1 麻しん(はしか)とは?

感染経路は空気感染、飛沫感染や接触感染など様々で、感染力はとても強く、免疫がない人が感染するとほぼ100%発症します。潜伏期間は10~12日ほどで、熱やせき、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると38℃以上の高熱と、全身の赤い発しんが出現します。肺炎や脳炎などの合併症を併発すると、時に命に関わることもあります。

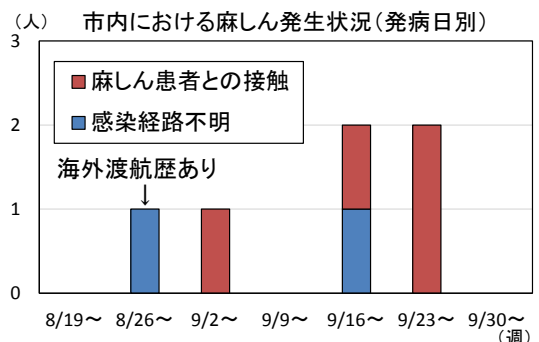
熱やせきなどの症状が出現する1日前(発しん出現の3~5日前)から発しん出現後4~5日(または解熱後3日)くらいまで、周りの人に感染させる力があります。感染拡大防止のため、なるべく外出を控えるなどの行動の注意が必要です。

- ◆ 参考:[麻しんについて\(国立感染症研究所\)](#) [麻しん・風しんについて\(横浜市保健所\)](#)

2 麻しん患者の発生状況(市内感染症発生動向調査:2019年10月2日現在)

6月下旬以降、約3か月間、市内で麻しん患者の報告はありませんでした。9月に6名の麻しん患者の報告があり、そのうち海外渡航歴のある患者が1名、麻しん患者との接触歴のある患者が4名、感染経路不明が1名でした。

首都圏を中心に、全国で散発的に患者報告があることや、海外渡航者の国内発症の可能性があることから、予防接種や健康管理が必要です。



3 予防接種について

麻しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MRワクチン)を2回接種します。

【標準的な接種期間】 1期:1歳以上2歳未満 2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

- ◆ 参考:[麻しん風しん予防接種について\(横浜市保健所\)](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463

麻しん流行情報は患者報告状況等に応じて不定期で発行します。毎週の報告状況は、[横浜市感染症情報センターホームページ](#)の「最新の感染症発生状況(横浜市内)」の「週報」の「全数情報」をご覧ください。